平成 30 年度　専門領域推進部　予防理学療法領域　第 1 回勉強会　活動報告

日時：平成 30 年 5 月 24 日(木)　19 時～20 時 30 分
場所：山形医療技術専門学校　レクリェーション室
参加者：6 名
スタッフ：栗田、田中、芦埜
テーマ：認知症・周辺症状に対する予防理学療法
担当：栗田

【内容】

昨年度調査したアンケート結果において、興味のある分野で最も上位となった認知症・周辺症状における予防理学療法について、上記の日程で勉強会を開催した。情報を提示しながら問題提起・意見交換し、それぞれの職場での取り組みや現状についても紹介し合った。

前半は、認知症に関する定義や分類・症状・治療・危険因子などについて確認した。治療については、改善の見込みがあるとされる軽度認知障害（MCI）では特に、早い段階で発見できるかが介入のカギとなる。ある程度症状が進行してから発見され、相談・受診する傾向にあるのが現状だが、普段の臨床や地域事業へ参画する中でいかに気付き、予防を促すことができるかが重要ではないか？と意見が飛び交った。高次脳機能障害との区別、運動野との関係性等も話題に挙がり、認知機能に関する整理をする良い機会となった。

後半は、認知機能に対して身体活動・知的活動・社会活動がどの程度効果をもたらすか、実用性の高いプログラムは？という調査研究が紹介された。機能によって異なる介入が効果的であることが読み取れ、改めて個別の評価・プログラムの立案・検証が重要だと感じられた。また、介護技術「ユマニチュード」においては、4 つの柱のうち 2 つの柱は「触れる」「立つ」という理学療法士が得意とする業である。エビデンスの確立されていない分野ということもあり、より効果的に介入できるようさらに研鑽を積んでいく必要がある。一方で、作業療法士や言語聴覚士らが得意とする検査・介入もあり、他職種や家族との連携についても重要性が再認識された。

初めての開催で不慣れな点が多々あったが、参加者同士が近い距離で気軽にやりとりでき、非常に有意義な時間となった。より参加しやすい体制を整えるうえでは、会場をスタッフの多い病院にする等、今後の課題に挙げられる。今後も興味のある会員を中心に日頃の疑問を共有したり、解決するきっかけとなる場となるよう努めていきたい。

文責：芦埜